三者協働でこれからの授業を設計してみよう ~コロナ禍での経験を踏まえて~

H班　嶋村
南
濱野
尾関
姫野

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.

過去から学ぶ情報社会

～コロナ禍で生まれた誤情報を読み解く～

KANSAI UNIVERSITY

Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.

1 授業概要

過去から学ぶ情報社会

～コロナ禍で生まれた誤情報を読み解く～

(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	2019年に突如始まったコロナ禍での教訓から、正確で信頼できる情報とは何か、誤情報は社会にどのような影響をもたらすのかを学びます。また、5年前の自分だけでなく周りの人の考え方やそれによる行動を振り返り、反省点やそれに基づく今後の課題も考えていきます。そして授業で得た情報の扱い方を、日常の些細な決定から進路などの大きな意思決定に活かせるようになることが本授業のねらいです。 誤情報の影響を学ぶため、ケーススタディを活用し、情報社会の中でコロナ禍で実際に起こった事例がなぜそのような結果をもたらしたのかを考えていきます。その際に、様々な情報メディアの特質や注意点を実際に経験しながら確認します。 授業の後半には、前半に学んだ過去の教訓を踏まえて、現在の課題をテーマに考えます。

KANSAI UNIVERSITY

Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.

1 授業概要

(3) 学位授与方針との関係 （プログラムポリシー）	①（知識・技能） 学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。 **②（思考力・判断力・表現力等の能力）** **学部横断型教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「考動力（自律力、人間力、社会力、国際力、革新力）」を身に付けることができる。** ③（主体的な態度） 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。
(4) 到達目標	①（知識・技能） 情報を集める媒体の特性を理解し説明することができる。 ②（思考力・判断力・表現力の能力） 自ら問いを発見・発掘できる。 情報の信憑性を判断できる。 効果的に人に伝える手段をとることができる。 ③（主体的な態度） 知識を自らの体験から習得および理解し、本来の目的を探求できる。 授業で得た知識を日常に活かすことができる。
(5) 授業手法	①教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック ②学生による学習のふりかえり ③学生同士の意見交換（グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む） ④プレゼンテーション ⑤課題探究（プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む） ⑥フィールドワーク

Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.

2 授業計画

(6) 授業計画	グループワークをもとに、話し合いを通してコミュニケーション能力を高める。 自ら課題設定し、諸問題について考える。 **【導入】授業前半1~4回：講義が主** 講義を中心にコロナ禍や「情報」の特質、メディアとメディアリテラシーについて概説する。それに加え、実例を交えてメディアが与えるの影響についても解説する。教員が講義の内容からテーマを示し、各班意見共有を行う。共有した意見はミニッツにまとめ、次回ＬＭＳにあげられた資料を見て教員がフィードバックする。 **【授業時間】**講義50分＋生徒間のコミュニケーション活動20分＋まとめ20分 **【展開1】授業5~8回：グループワークが主** １回から4回で学んだことを用いて、五年前の自分の考え方や行動を振り返り共有を行う。 **【授業時間】**講義40分＋グループワーク(活動が主の時間)40分＋まとめ10分 **授業9回: 質疑応答や発表に向けた講義** LMSにて質問を募集し、講義内で回答する。また、第10～13回に向けた導入を行う。 **【展開2】授業後半10~13回：グループワークが主** １回から4回で学んだこと、5回から8回で振り返り気づいたことを用いて、今後コロナ禍のような状況に限らず日常生活では情報をどのように活用し行動するかについて考えを深めていく。 **【授業時間】**講義30分＋グループワーク50分＋まとめ10分 **【まとめ】報告会14・15回**　各回5班ずつ **【授業時間】**70分発表・フィードバック20分
(7) 授業時間外学習	・各自で参考書を読む ・フィールドワーク ・テーマ毎に情報収集

3 成績評価の方法・基準・評価

(8) 方法	定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。 受講態度（グループディスカッションへの参加度）20%、 授業中に指示する提出課題（ミニレポート）40%、 最終発表の完成度40%
(9) 基準・評価	**①（知識・技能）** 情報を集める媒体の特性を理解し説明することができる。 **②（思考力・判断力・表現力の能力）** 自ら問いを発見・発掘できる。 情報の信憑性を判断できる。 効果的に人に伝える手段をとることができる。 **③（主体的な態度）** 知識を自らの体験から習得および理解し、本来の目的を探求できる。 授業で得た知識を日常に活かすことができる。
(10) フィードバックの方法	・質問はミニッツ・LMSのメッセージにて受け付け、共有すべき内容は授業で共有する。

4 その他

(11) 参考資料	買う必要はないが、参照するとよい本。 笹原和俊(2020)「フェイクニュースを科学する」化学同人 白戸圭一(2021)「はじめてのニュース・リテラシー」筑摩書房 ハイジ・J・ラーソン(2021)「ワクチンの噂：どう広まり、なぜいつまでも消えないのか」みすず書房 西田亮介(2020)「コロナ危機の社会学：感染したのはウイルスか不安か」朝日新聞出版

KANSAI UNIVERSITY
Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.

5 詳細　(前半の授業、15回中4回目を例に)

時配	【コロナ禍に重点を置く回】**学習内容と活動**	**授業中の留意点・評価**
導入	①前回提出されたミニッツから、補足や質問への回答 ②授業への導入 ⑴コロナ禍を中学～高校生として過ごした学生らに、どのようなことがあったか問いかけ思い出す時間をとる ⑵コロナ前・中・後の学校の写真を用いて変化をみる	【留意点】 意見を交流する時間を設けるため、多くの人の意見を聞けるよう前回と座る場所を変えたり、周りに話せる人がいるよう座席を分散するよう指示
展開	導入②を受け、 コロナ禍に起きた誤情報による混乱事例を見る 1. 予防法に関するもの　2. ワクチンに関する噂　3. 陰謀論的言説 **【流れ】発問→個人で考える時間→<u>周りの人と考える時間</u>→LMSへ投稿→各発問ごとに、グループで最低2つの班に対して返信をする** **例）** **発問1.**　発信されたある情報の中で事実の部分と意見・感情の部分はどれだろう **発問2.**　広まった情報の特徴、広まらなかった情報の特徴を考えよう	【留意点】 LAの導入 ・話し合いが難航しているグループの補助 ・学生と教員の仲介役 【評価】 ・LMSへの投稿内容（思考・表現） ・他班への返信の件数（主体的な態度）
まとめ	**【流れ】発問→個人で考える時間→<u>周りの人と考える時間</u>→まとめ** **課題**　過去の自分はコロナについての情報に対してどのような姿勢で触れていたか。授業の内容を受け振り返り、いまの自分ならどうするかを考える ➡5回以降への導入につながる 話し合った内容、授業を受けて考えたことをまとめLMS上で提出	【留意点】 LAの導入 ・話し合いが難航しているグループの補助 【評価】 ミニッツペーパーの内容：学んだことを日常生活に活かせているか

～ご清聴ありがとうございました～

Copyright©2021 Kansai University.All Rights Reserved.